

異国の地で ボランティア



青年海外協力隊として2年間、トンガに渡航する伊藤愛さん(池尻・歯科衛生士)が尾藤市長を訪ね、抱負を語りました。現地の国立病院に赴任し、島の小学校や幼稚園で歯磨き指導などを行う伊藤さんに、

尾藤市長は「くれぐれも体に気をつけてください。関の親善大使として、トンガと関のかけ橋になってください」と激励し、伊藤さんは「頑張ってきます」と元気に答えてくれました。

あんな事、こんな事



プロの役者とステージに

9月29日に武儀生涯学習センターで開催された劇団かかし座の演劇「アラジンと魔法のランプ」に、武儀西小学校4～6年生児童が舞台の中に入ってかかし座と一緒に劇を演じました。これは文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」の一環で行われ、夏休み前に団員から指導を受け、本番に向けて特訓を続けてきた児童らは、素晴らしい歌と演技を披露してくれました。

ミュージカルの真髄に触れる

博愛小学校で9月14日、ミュージカルを演じる東京の演劇集団「遊玄社」の団員から5年生が演劇表現の初歩を教わりました。これは文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」の一環で行われ、児童らはバンダナで動物の特徴を作って、その鳴き声や動きを全身で表現したり、アフリカの打楽器を使って、劇で歌う歌をみんなで歌ったりしました。





緑いっぱいの工業団地を

関テクノハイランドで9月27日、ツツジの植栽が行われ、テクノハイランドの企業の社員ら約100人が参加しました。この事業は、全国豊かな海づくり大会協賛事業で、中部電力関営業所と県緑化推進委員会関支部から400本の苗が寄贈され、同ハイランド連絡協議会の初の緑化活動でした。参加者は汗をぬぐいながら、1本ずつ丁寧に苗を植えていきました。

川と人との共生を考える

関、美濃、各務原、郡上各市のロータリークラブが主催、関中央ロータリークラブが主管して、長良川を取り巻く生態系についてのシンポジウムが開催され市民ら約250人が参加しました。市内の子どもたちが続けてきた長良川水質調査の報告に続き、フォトエコロジストの新村安雄さんが講演。大きなアユが少なくなったことを取り上げ、長良川の環境保全を提言しました。



日本の味付け 難しい!?

関市国際交流協会のボランティア委員会主催で、在住外国人を対象に日本の料理交流会がわかさ・プラザで行われ、中国、ブラジル、ベトナム、インドネシアからの研修生など約30人が日本料理作りを体験しました。参加した外国人は、片言の日本語で指導員の人の助言を受けて、慣れない日本食の味や水加減などに気を使いながらも、楽しそうに調理していました。

止まる・見る・待つ・確かめる

市平賀の中濃自動車学校で9月24日、シルバー・セーフティ・スクールが行われ、富岡地区の高齢者が交通弱者の立場から交通安全に対する認識を高める学習をしました。人形を使った衝突実験では、車の陰から人が飛び出したところに時速20キロで走っている車が急ブレーキを踏むとどうなるかを見学し、予想以上の衝撃に見学者は大変驚いていました。



こぼれ話



先日、取材で市内の保育園に出掛けました。平成24年に岐阜県での開催が決まった「ぎふ清流国体」のPRのため、大会キャラクターの「ミナモ」率いるミナモダンスの皆さんが、園児らに「ミナモダンス」を教えるという事業でした。楽しい振り付けに子どもたちも夢中で踊っていましたが、それにも増してミナモは大人気でした。

ある日のわが家での団らんのこと。保育園に通う娘

2人に「ミナモちゃんってどう?」と尋ねると「大好き」との答えが。「じゃあヤマリンとミナモ、どっちが好き?」と質問すると「ミナモに決まってるじゃん」と声をそろえて答えるではありませんか。「豊かな海づくり大会」の成功のため日々頑張っている広報担当としては、ちょっとショックな答えでした。理由を尋ねると「顔がヘン」とか、「イカみたい」とか…。何としてもヤマリンのイメージアップをと、心新たにPRに努めたいと思います。新コーナー「ヤマリンだより」をお楽しみに!